

プレゼンテーションの相互評価に見られる相反するアノテーションの分析

北村 雅則 (南山大学) 山口 昌也 (国立国語研究所)

分析対象 = 日本人大学生1年生の「3～4名によるグループプレゼンテーション」における相互評価と振り返り

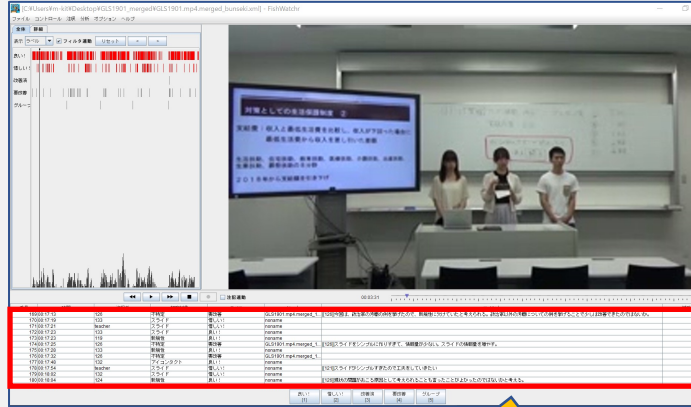
FishWatchr Miniの アノテーション画面



観点 (6観点)

種類 (2種類)

FishWatchr を使用した振り返り画面



過去の調査に見る
アノテーションの
信頼性は93.4%
(北村・山口
(2020))

「惜しい」の2秒後に「良い」

↓
ミス? 意図的?
振り返る際、惑わせる要因

番号	時間	観察対象	ラベル
169:00:17:13		不特定	要改善
170:00:17:19		スライド	惜しい!
171:00:17:21		スライド	惜しい!
172:00:17:23		スライド	良い!
173:00:17:23		新規性	良い!
174:00:17:25		不特定	要改善
175:00:17:28		新規性	良い!
176:00:17:32		不特定	要改善
177:00:17:48		アイコンタクト	良い!
178:00:17:54		スライド	惜しい!
179:00:18:02		スライド	惜しい!
180:00:18:04		新規性	良い!

5グループに対する「受講生17名 + 教師1名」によるリアルアノテーション総数1770箇所から
(A) すべての【観点】のアノテーションから【種類】「惜しい」を抽出
(B) その前後3秒間に同じ【観点】のアノテーションで【種類】「良い」が付与された場合を抽出 = 39単位

評価者の同異 (表1) と【種類】の乖離の要因 (表2,3) を分析 → アノテーションの信頼性を判断

表1 【観点】別の評価者の同異

	話し	アイ	ジェ	スラ	新規	有用
同じ	0	0	0	2	4	4
異なる	5	9	2	9	3	1

表2 【種類】の乖離の要因 (同一評価者)

	スラ	新規	有用
ミス	2	2	3
着眼点	0	1	2

表3 【種類】の乖離の要因 (異なる評価者)

	話し	アイ	ジェ	スラ	新規	有用
ミス	3	0	0	0	0	0
着眼点	1	9	2	9	3	1
場面	1	0	0	0	0	0

【分析結果のまとめ】

- 評価者別では異なる評価者による【観点】の乖離が多い
- 【種類】の乖離の要因 = ミス / 着眼点の相違 / 場面の相違
- 同一評価者の場合、ミスが多い (着眼点の相違は新規性・有用性だけ)
- 異なる評価者の場合は、着眼点の相違がほとんど (話し方のみ、ミス / 場面の相違がある)
- 着眼点の相違例：
 - [アイコンタクト] 基本的に聴衆目線、時々手元
 - [スライド] 情報量の多少
 - [新規性・有用性] 提示された内容に対する知識差など

結論：【種類】の乖離があっても、アノテーションの信頼性にはほぼ影響なし
【観点】の選択方法やアノテーションのしかたについては改善の余地がある